

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成24年8月1日(水)~17日(金)

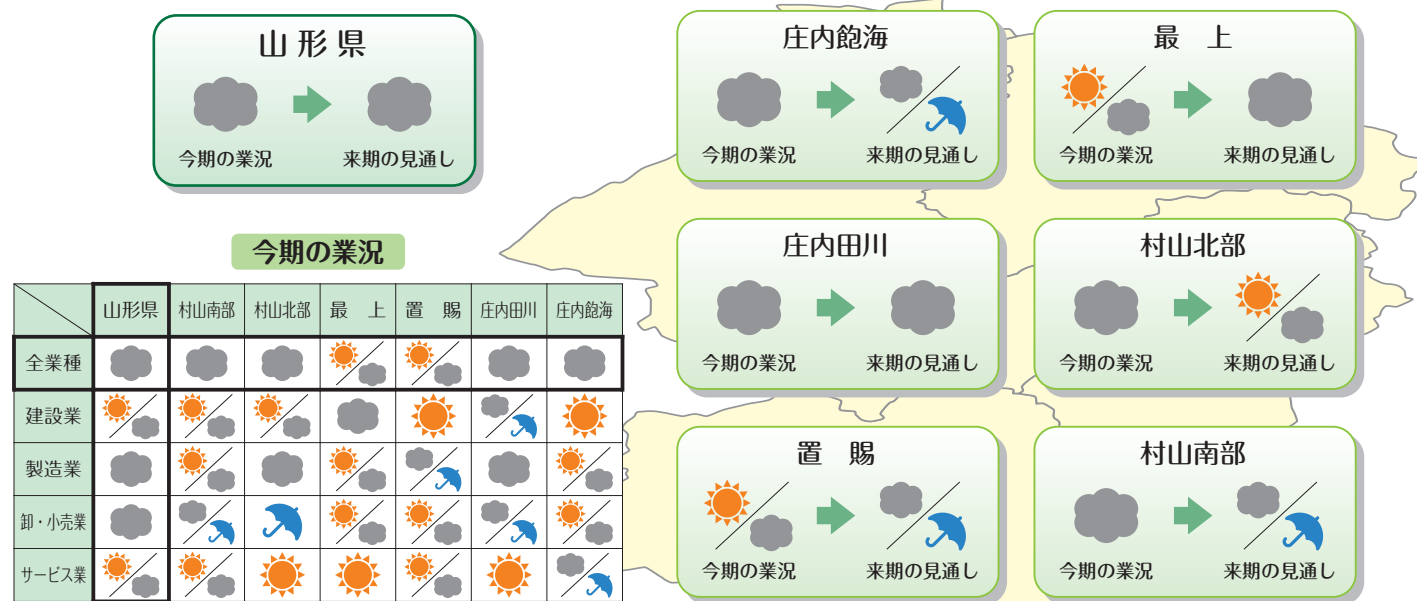
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形755社、秋田584社
有効回答数 山形482社、秋田385社
回答率 山形63.8%、秋田65.9%

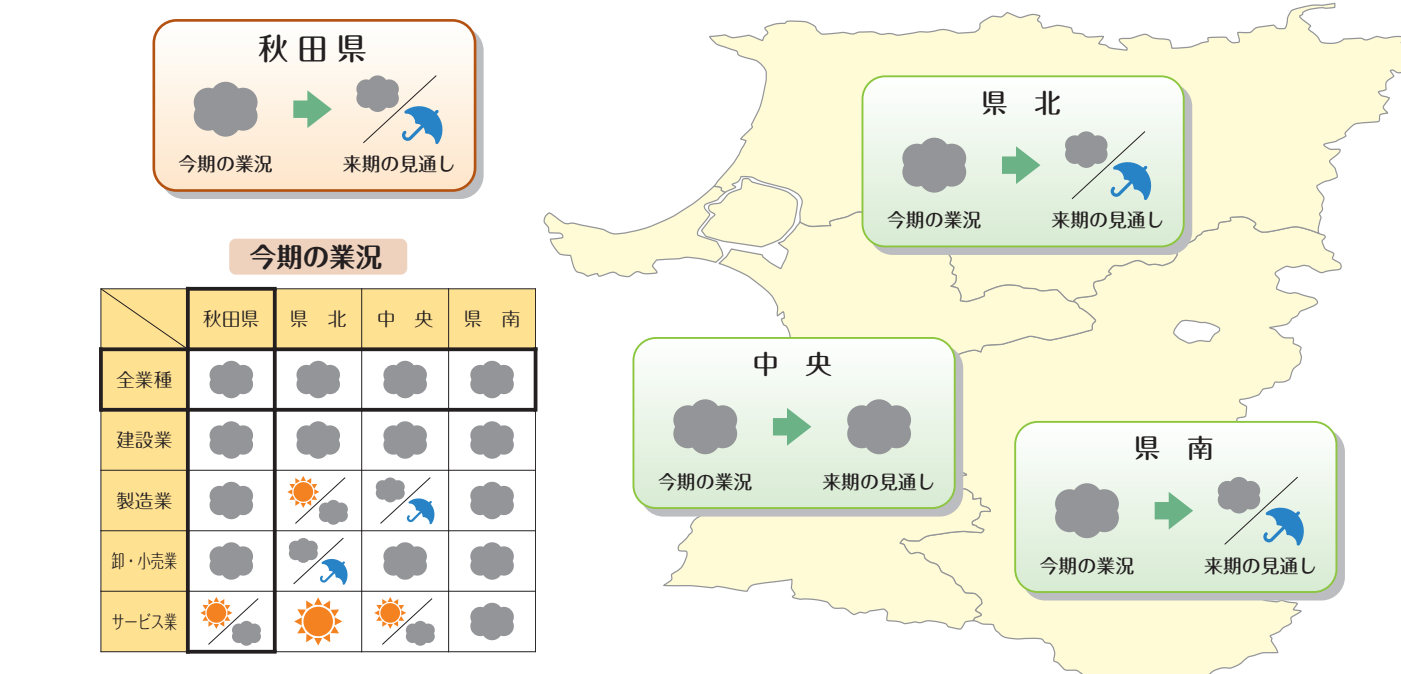
特に好調 DI≥30	好調 30>DI≥10	まあまあ 10>DI≥10	不振 ▲10>DI≥▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気天気図

第32回「山形県内企業の景気動向調査」



第5回「秋田県内企業の景気動向調査」

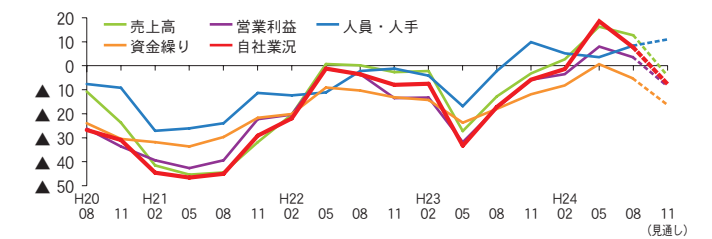


▶ 自社業況の動向

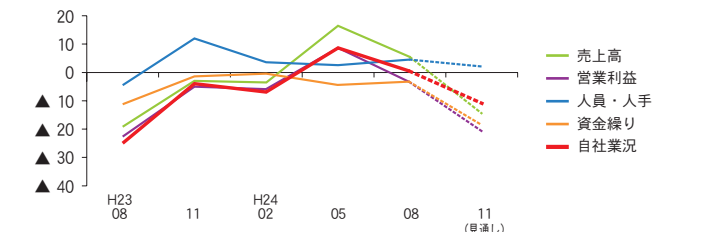
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、7.7(前回調査比8.9ポイント下落)とDI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった。総じて県内景気を判断すると、**停滞の兆しがみられる**。先行き見通しは、▲7.3(今回調査比15.0ポイント下落)と、大幅に悪化する見込みとなっている。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が0.8と「良い」超を維持したものの、DI値は前回調査に比べて7.8ポイントの下落となり、2期ぶりの悪化となった。総じて県内景気を判断すると、**足踏み感が窺える**。先行き見通しは、▲10.7(今回調査比11.5ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



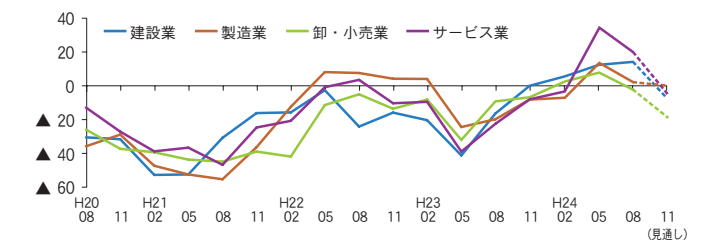
▶ 業種別の動向

山形県の業況を業種別にみると、建設業以外の業種で悪化となった。総じて業況を判断すると、**建設業は震災復興需要などを背景に上向きつつあるも、製造、卸・小売、サービスの各業種で停滞の兆しがみられる**。

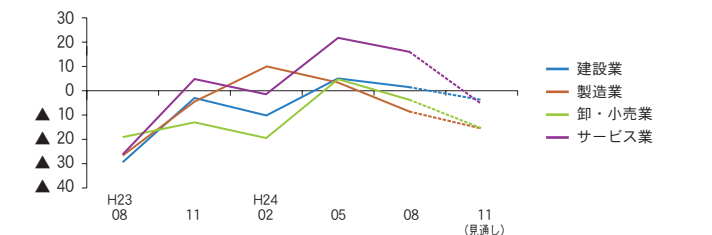
先行き見通しは、全業種で下落の見通しとなっており、特に建設業やサービス業の悪化幅が大きい。

秋田県の業況を業種別にみると、全業種で前年同期に比べて悪化しており、総じて業況を判断すると、**全業種とも停滞感が窺える**。先行き見通しは全業種で悪化の見通しとなっており、卸・小売業▲15.6(今回調査比11.9ポイント下落)や製造▲15.5(同6.7ポイント下落)において大幅なマイナスとなっている。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

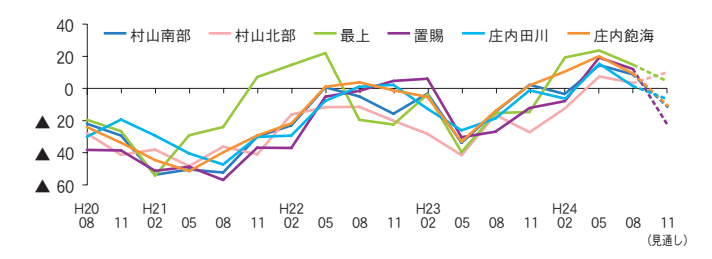


▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、村山南部で8.7(前回調査比6.0ポイント下落)、村山北部で3.4(同3.8ポイント下落)、最上で14.6(同8.9ポイント下落)、置賜で11.9(同7.2ポイント下落)、庄内田川で1.1(同14.5ポイント下落)、庄内飽海で9.1(同10.9ポイント下落)となり、**全地域ともDI値はプラスを維持しているも、前回調査と比較して悪化となった**。先行き見通しは、村山北部を除く地域で悪化の見込みとなっている。

秋田県の業況を地域別にみると、県北で6.3(前回調査比1.0ポイント上昇)と引き続き「良い」超で、前回調査に比べて小幅な改善となったものの、中央では3.3(同12.3ポイント下落)と依然「良い」超ながら悪化となり、県南では▲7.5(同4.2ポイント下落)と引き続き「悪い」超でマイナス幅が再び拡大するなど、総じてみれば**全地域とも持ち直しの動きに足踏み感が見られる**。先行き見通しは、全地域とも悪化の見込みとなっている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

